令和6年度の学校評価

本年度の重点目標	<p>今まで以上に安全で安心な学校づくりを目指す。そのためには、家庭や地域、企業との連携を図りながら推進する。また、生徒や保護者の夢を形づくるなど、3年間の学びを通して、社会から期待される生徒の育成や地域から愛される学校を目指す。</p> <p>(1) 職員は、生徒との好ましい人間関係をつくり、教育活動に取り組む。</p> <p>(2) 基礎・基本を大切にして、スモールステップを踏むなど分かりやすい授業を実践すると共に、生徒の学習意欲を引き出すための授業改善に取り組む。</p> <p>(3) 職員は、自ら指導技術を磨き教育への見識を高めるとともに、品性を磨き、豊かな教養と広い社会的視野をもち、資質能力の向上と授業規律の確立に努める。</p> <p>(4) 基本的な生活習慣の確立を図り、全校生徒が自ら進んであいさつができるように、生徒を主体としたあいさつ運動の支援を行う。</p> <p>(5) 教育活動全般を通して、生徒が思いやりをもち、互いの個性を尊重しつつ周りの生徒と協力して行動できるように、生活指導を推進する。</p> <p>(6) 生徒を地域のイベントに積極的に参加させるなど、より多くの学びの機会を設け、活動を通して達成感や自己有用感などを体得させ、自ら進んで学ぶ姿勢を養う。</p> <p>(7) 工科高校として、時代と地域社会に即した教育の在り方について研究する。</p> <p>(8) 普段の教育活動や行事など生徒の活動の様子について、ホームページなどを積極的に活用し家庭や地域社会に向けた情報発信に努める。</p> <p>(9) 安全衛生委員会などの既存組織を活用し、ワーク・ライフ・バランスに十分配慮し、職場環境を整えていく。さらに業務改善に向けた取組として「業務の見える化」を進め、業務を分担できる協働体制をつくる。</p>		
項目	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA諸活動を通し、保護者に学校生活を開かれたものにする。 ・災害時の初動に支障をきたさない対策をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事のみならず、各種会議やPTA活動へ参加してもらい、学校で過ごす時間を多くする。 ・避難経路図やマニュアルの整備をし、より洗練されたものにする。また、それを周知し訓練等の際にも用いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会行事の打ち合わせを開催し、PTA主催ですることができた。担当職員の負担軽減があった一方、増えた点もあったため、今後の取り組み方を模索する。 ・防災については、防災教育指導者研修会に参加するにとどまってしまった。訓練での実践練習まで発展させたい。
教務部	<ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程の実施による本校のカリキュラムの見直しを行う。 ・入試業務の改変による業務改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科、学科の意見を集約し、選択科目の再編成などの見直しを進める。 ・業務の停滞を招かないように、担任や関連分掌と連絡を取り合いながら効率的に進める。 ・入試制度の改変により、分掌内の業務分担が明確に把握できるようになったことから、校内の入試要項の見直しを行い、選抜委員会を経て、全職員に周知できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程について各教科、学科から意見を集約し、令和7年度入学生より学校の特性に合わせた教育課程を編成することができた。また、単位数について考慮事項もあった為、今後の委員会等で意見の集約を図り、よりよい教育活動へつなげる。 ・入試業務の見直しを行い、業務分担の明確化ができた。入試制度の改変が、今年度で2年目となる。改善箇所の集約を行い、改善に向けて各分掌等と協力を図っていきたい。
図書部	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の生徒利用や教育活動の推進を図る。 ・教員の教科指導力向上のための研修を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒図書委員会や職員図書委員会を開催し、さまざまな教育活動を行う。 ・魅力的な図書館のディスプレイや生徒が読みたいと思う新刊図書を整備する。 ・授業公開期間を設定し、また保護者授業見学会を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力的な新刊図書や雑誌の購入により、生徒の来館者が増加した。 ・生徒図書委員会の活動を再編成し、より柔軟な活動が可能になった。 ・保護者授業見学会の開催により、保護者の本校への理解が深まった。

項目	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会のルールやマナーの遵守、規範意識の確立 ・ 5分前登校の徹底と交通事故件数の減少 ・ いじめの早期発見と適切な事案対処 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校活動を通して、マナーやモラルを向上させ、社会の一員として自覚を持ち、ルールを遵守させる。 ・ 生活習慣を整えさせ、日頃から余裕をもった時間感覚を身に付けさせる。 ・ 長期連休明けに交通事故が増えている現状を踏まえ、重点的に早朝立ち番指導や交通安全指導を行う。 ・ いじめの情報収集、事案対処の在り方について検証し、いじめの早期発見に努めるとともに適切な対処を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登下校マナーは引き続き良好であるが、一部生徒のながらスマホや周囲への配慮について、近隣の方からご指摘を受けることがある。交通事故件数も増加しているため、交通安全教育を充実させていきたい。 ・ 遅刻数は、昨年度から今年度もさらに増加している。不登校傾向のある生徒の入学が増えており、許容せざるを得ない状況もあるが、学校全体で改善を図りたい。生活習慣や時間を守ることの重要性を様々な場面で伝えていきたい。 ・ 本年度は1年生を中心に SNS の使い方による問題行動が増加した。来年度は、情報モラル教室の実施時期を早め、未然防止に努めたい。 ・ いじめ事案に適切に対処することができた。些細なことがきっかけであることが多く、未然防止に努めたい。
特活部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部活動や学校(生徒会)行事への積極的な参加を促す。 ・ 福祉、ボランティア活動を通して慈愛の心と社会人基礎力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年間の部活動の定着及び活性化を図る。 ・ 学校行事が生徒主体で行えるように計画し支援する。 ・ 福祉、ボランティア活動を通して、地域に貢献できる生徒の育成を目指す。 ・ あいさつのできる社会人の育成を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの部活動で県大会へ出場することができ、活動の成果を発揮することができた。 ・ 学校行事を生徒会役員が中心となって活動することができた。 ・ 清掃ボランティアには多くの生徒が参加するようになった。 ・ 挨拶運動を120回行うことができた。挨拶の飛び交う学校にしていきたい。
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育活動全般を通して正しい職業観・勤労観を育み、生徒の進路選択、進路実現の支援に努める。 ・ 選科の実施に当たり、生徒の将来設計を考えた選択ができるように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担任を柱として、学科や職員との連携を深め、情報提供および情報交換を密にし、連携をした進路指導を目指す。 ・ 選科の実施に当たり、学年会、学科主任、家庭科主任と協力をして分かりやすい資料作成や情報提供を実施し、選科作業を進め、選科の年間計画を確立させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が正しい職業観・勤労観を実現するための教育活動が体系的に実施され、教員間の連携を確立することができた。 ・ 生徒が将来を見据え、機械科・電子工学科や建築デザイン科・環境科学科を正しく選択できる支援を体系的に実施することができた。
保健厚生部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣を確立させ、心身の健康を保ち自主的な健康管理が行えるようにする。 ・ 安全で清潔な環境整備に努め、学校全体で取り組む体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別、集団の保健指導を実施し、健康に対する意識の向上を図る。 ・ 教員、保護者、関係機関が連携して生徒を支える体制を確立する。 ・ ヒヤリハット、安全点検、救急法の研修を生徒、教員が真摯に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健室来室者数、5類感染症罹患者数ともに昨年度より減少している。健康観察や常時換気を今後も徹底していきたい。 ・ ヒヤリハットや救急法研修により、教員の安全意識を高めることができています。 ・ 学科の協力を得て安全点検の徹底を図ることができているが、環境整備が不十分な点があり、生徒とともに学校全体で一層取り組む必要がある。
工務部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資格取得、競技会を通して、生徒の学ぶ力と意欲向上を図り、その成果を学校外へ情報公開をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年会と連携し、資格取得を促す。学科と連携して指導を行い、合格率の向上を図る。 ・ 情報化推進委員によるホームページ更新を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度より各検定の合格者が増加した。特にリスニング英語検定では、英語科の協力もあり大幅に向上した。 ・ 定期的なブログの更新をすることができなかった。次年度は、定期的な更新を心掛け、各部活動や学科と協力して生徒の活躍を発信していきたい。

項目	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
機械科	<ul style="list-style-type: none"> 時代と地域社会に即した学習の在り方と持続的な教育技能について研究する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各実習ショップにおける危険リスクを掲載したテキストに改編する。また、指導者マニュアルを作成し、作業の標準化と作業安全の共有を図る。 企業見学や、地域イベントへの参加を積極的に行い、企業からの要望や地域の声を集約し、授業や実習テーマについてキャリア教育の最適化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 加工実習を中心にリスク見積表を作成した。また、作業ごとの危険についても指導者マニュアルに追加し、作業安全の共有を図ることができた。 PC制御など危険度の低い実習および実習室のリスク管理が遅れているため、早急に整備をしていきたい。
電子工学科	<ul style="list-style-type: none"> 新しい安全指導の実践 専門分野への学び力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 大幅な見直しを加えた実習系のテキストを活用して、KYTの実践や、教員の共通認識による基本的な安全指導の徹底、生徒の技量や興味・関心を捉えた作業手順や指導方法を実践する。 事業所見学や外部講師などを活用し、自己の進路実現に向けた学習意識を向上させ、資格取得に向けた提案やサポートを見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> 各テーマ、作業ごとのリスク見積表を元に、作業手順と留意事項を教員と生徒で共有することができ、安全作業を行うことができた。 学年に合わせたガイダンスや現場見学の実施ができ、キャリア教育の充実が図れた。 資格取得への案内が生徒から家庭に伝わらないケースがあり、問い合わせもあつたため、生徒への情報発信の改善を進めたい。
建築デザイン科	<ul style="list-style-type: none"> 安全作業を定着させる。 様々な学習や体験を通して勤労観・職業観の形成を促す。 大学と連携した教育を行い、学習意欲の向上とともに進路選択の幅を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に実習に伴う危険予知を行い、安全マニュアルを活用する。 企業と連携して技能体験会や現場見学会を計画し、生徒の勤労観・職業観の形成を促すキャリア教育を行う。 大学や専門学校より講師を招き、講義などを行う出張講義やICT機器を用いた遠隔授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 実習前に危険予知活動（KY活動）を定期的に実施することができた。 生徒が実際の現場を見学し、技能を体験することで、普段の授業では得られない実践的な知識や技能を身につけることができた。 高大連携で愛知産業大学とオンライン授業を3日間実施できた。大学の幅広い講義に触れることで、建築についての興味や関心を広げることができた。
環境科学科	<ul style="list-style-type: none"> 資格、検定取得の充実 実技を伴う授業において、安全教育・安全作業の定着 進路の選択実現のため、自ら努力する姿勢を養う。 校外へのイベント参加など情報発信の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 資格、検定の指導内容の検討、補習の充実をする。 危険予知訓練指導の推進と基礎基本に基づいた作業の徹底を行う。 職場見学、社会人講師の講話などを通じて、進路考察やキャリア教育を行う。 中学校訪問、校外活動などを通じて、校外への情報発信を積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ワープロ検定の受験者の増加、検定の補習を計画的に実施することができた。 実習ごとの安全教育を実施したことで事故が減少した。 外部講師等や工場見学など校外での活動を増やし、キャリア教育の充実を図ったが、生徒の理解を深めることができなかつた。生徒に合わせた指導を進めていくことで改善したい。 校外活動を増やし、生徒の活躍を情報発信することを行うことができた。

項目	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
3年学年会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的生活習慣の定着と社会人基礎力の向上 ・ 進路実現に向けてのキャリア教育の充実 ・ リーダーの育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遅刻数の減少など、時間を守り、自己管理ができる生徒を育成する。 ・ 前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力など、社会人として必要な能力の向上を図る。 ・ 進路実現のための自己分析と企業や進学先の研究機会を設ける。 ・ 部活動や学校行事などに積極的に参加させ、主体的に動ける人材の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年全体として概ね自己管理はできているが、特に遅刻数や5分前行動等の時間の管理については、一定数の生徒が昨年度からの改善を図ることができなかった。 ・ 進路指導部と密に連携を図り、生徒の多くが進路実現に向けた活動や行事を通して、社会人として必要な能力の育成を図ることができた。 ・ 学年全体として部活動や学校行事への取り組みに物足りなさを感じたが、あらゆる場面でリーダーシップを発揮し、学年やクラスのために行動する生徒が一定数あった。
2年学年会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的生活習慣の定着 ・ 進路実現に向けてのキャリア教育の推進 ・ リーダーの育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5分前行動を習慣づけ、昨年度より遅刻数を減少させる。また、挨拶や身だしなみについて主体的に行動できるようにアプローチする。 ・ 自己分析を通して、将来像を考えさせ、進路実現のために何をしたらよいか、思考を深めさせる。 ・ 学校の中核を担う学年として、部活動や学校行事などに積極的に参加させ、主体的に動ける人材の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の多くが5分前行動を習慣づけることができた。しかし、一部の生徒については、あいさつや身だしなみ含め、改善が必要である。今後も継続した指導をしていきたい。 ・ HR活動や進路講話、進路ガイダンスを通して自己の将来像について考えさせることができた。今後は、目標の進路実現のため、丁寧な指導をしていきたい。 ・ 部活動や体育祭をはじめとした学校行事へ積極的に取り組むことができた。しかし、一部の生徒について物足りなさを感じた。今後も主体的に学校生活を送れるように指導方法を検討していきたい。
1年学年会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的生活習慣の確立を図る。 ・ 高校生としての自覚・目標設定をさせる。 ・ 自身の進路を考えて選科を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5分前行動や自ら挨拶することを心掛けさせる。 ・ 各教科学科と連携を図り、提出物の有無や授業の取り組み状況について共有する。また、健康観察などから気になる生徒には迅速かつ密な連絡を家庭と図る。 ・ 各学科等と連携を図り、高校生活の中で資格取得や部活動、ボランティア等、目標をもって取り組ませる。 ・ 進路指導部と連携を図り、就職と進学という進路選択を早期に考えさせ、選科を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの生徒が基本的生活習慣を確立させることができている。 ・ 授業態度について、教員間で共有を図ることができ、生徒の面談に役立てた。年度当初に比べ、課題提出の状況は向上してきた。 ・ 資格取得について、計算および情報技術検定では、良好な結果が得られたことから、生徒の努力を感じられる結果となった。 ・ 生徒の希望に沿った選科を行うことができた。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎・基本を大切に授業展開を行い、生徒用タブレット端末の使用が進んだが、今後も多くの時間で使用した授業展開が求められる。ICT支援員の活用など教員の研修を進めるとともに生徒の現状を踏まえた授業展開ができるようにしていきたい。 ・ 昨年度に引き続き生徒会主催のあいさつ運動が100回を超え、今年度は120回を開催することができ、生徒主体の活動として取り組むことができた。 ・ 各分掌で業務の見直しが進められ、新たな課題も出たが、改善を進めることができた。 ・ 安全で安心な学校づくりを推進するための取り組みについて、ヒヤリハットの報告や実習室の安全点検方法など改善し、教職員の全体で意識改革を進めることができた。 		